

「仲介役」惜しむ声

中台双方が功績評価

リー・クアンユー氏は先
 祖が中国出身の華人指導者
 として、中国と台湾の双方
 と深い関係を築いた。中台
 の「仲介役」を果たしたこ
 ともあり、双方から死去を
 惜しむ声が上がった。
 中国はシンガポールを一

党支配下での社会制度改革
 のモデルの一つともしてき
 た。死去を受けて習近平国
 家主席のほか、李克強首
 相、張徳江・全国人民代表
 大会常務委員長、王毅外相
 からも弔電を打つなど、功績
 を極めて高く評価し、二國

間関係を重視していること
 を示した。
 リー氏は2007年の訪
 中で、党最高指導部メンバ
 ーになって間もない習氏と
 会談。帰国後、「感情をコ
 ントロールする力にだけ、
 自身が経験した苦しみを物
 事の判断に影響させない。
 (南アフリカの)マンデラ
 氏に匹敵する指導者」と
 絶賛したことで知られる。
 リー氏は共産主義に反対

し、もともと台湾帰国ら台
 湾の指導者との関係が深か
 った。1970年代以降は
 中国の指導者との交流に乘
 りだし、90年に中国と国交
 を結んだ。
 だが、その後も台湾と一
 定の関係を維持。93年には
 中台の民間窓口機関トップ
 の初会合をシンガポールで
 実現させた。
 台湾行政院(内閣)は23
 日、リー氏について「兩岸

(中台)関係の促進に力を
 注いだ」と評価。93年のシ
 ンガポール会議で「兩岸の
 平和的対話と安定した交流
 の道を開いた」とした。馬
 英九総統は蔣経國の秘書を代
 してリー氏あての書簡を代
 筆していたこともあるとい
 う。「卓越した指導者たっ
 た」と再明を出した。
 (北京)林業、台北「騰華書
 局」が出版した。
 リー・クアンユー氏が死
 去したことを受けて、地元
 の新聞社は23日、公用語の
 英語、中国語、マレー語、
 タミル語でそれぞれ、「建
 国の父」の功績を振り返る
 特別号を発行。駅の売店も
 特別号を買い求めた市民
 の列ができた。
 地元テレビやラジオも、
 死去が伝わる直後から内
 容を切り替えて特別番組を
 放映した。
 (シンガポール都府吏)



①リー・クアンユー元首相=2013年3月、AFP時事②首相として来日した、佐藤栄作首相(当時)と会談したリー・クアンユー氏(左)=1967年

東洋の真珠育んだ「魔法使い」

リー・クアンユー氏

リー・クアンユー氏の最大の功績は、シンガポールを独立させ、対外関係を安定させ、それを世界有数の豊か nation に育てたことである。彼の知恵と権謀力とリーダーシップが、この小さな島国を東洋の真珠に変えた。中東、アフリカをはじめ世界の諸国システムが激しくきしむ今、彼はネーション・ビルディング(国づくり)の魔法使いであったかに見える。

元朝日新聞主筆 船橋 洋一

「私は、1990年代初期からはほぼ3年に1度の割合で話をじかに聞いてきた。93年6月、テープを聞きながら、その前にいくつか聞きたいことがある」と言っていた。その「日本の国民はなぜ、自民党を愛せようとするのか。変えて一体どうするか。変えて一体どうするか。変えて一体どうするか。変えて一体どうするか。」

「日本はレゴ(組み立て玩具)のような国だ。それは自分の思いもろく規格化され、あまりにもがっちり組織をつくってしまっている。個人の力を最大限引き出さなければならぬ。世界中の才能を使わなければならぬ。それがレゴにはうまく入らなうか。」

2003年9月、朝日新聞「日本@世界」のインタビューで、ブッシュ政権の対テロ戦争の行方とイスラーム過激派の挑戦への懸念を口にしていた。
 「冷戦時代、私たちは『米国の覇権』と想定してきた。しかし、それが将来も妥当な想定かどうかはわからない。」

「中国という国はユダヤ人できえ消化してしまっただけで、その中国もムスリムだけ消化できなかった。いま中国には1億3千万人のムスリムがいる。10年5月、朝日新聞「新世界、国々の興亡」のインタビュー。その日は土曜日だった。ちよと異なると部屋に入ってきた。今日は中国語(普通話)のレッスンの日にあたり、ちよと選んでしまった。すまた、といながら、席をついた。独立後は英語が公用語に指定された。国民の英語力に国力そのものであり、それなしには国際ビジネスで生き残れない。しかし、80年代、中国が改革、開放に向かうと、国民に中国語の学校に通わせたりもした。それは英語で話して、自分は中国語で話して、子どもたちも話せる中国語から教わった。

小淵恵一首相の答問機壇の21世紀日本の構想「懇談会」の一員として、彼に会ったことである。99年10月

統率力で門戸すべて開放



リー・クアンユー氏は、強固な統治モデルを遺産としてシンガポールに残した。それは先見性にあふれ、大胆かつ自信に満ち、たとえ国民に不評であっても、やり遂げるものだった。建国間もないシンガポールは、こうした統治手法なしには生き残れなかったであろう。リー氏は移民や留学者、外国投資家、アイテックや情報などを意図とリー・クアンユーが、目的意識によって可能にしてきた。そうして生まれた「ユニーク国家」はシン

シンガポール経営大 ユージン・タン准教授

ガポール人の美徳になった。ガポールが1990年に首相を退任して以降、経済格差など社会問題を背景に知的な批判的な有権者が増えてきた。ソーシヤリズムは政府批判を増幅させた。一方支配を支持する若者も減っている。彼らは全く異なる政治環境と文化を求めた。リー氏が築いた強い政治家が国を引っ張る時代は終わった。国民は政治家に経済発展を求め、公平に分配するのかわる。課題はシンガポールが一党支配からスムーズに移行できるかだ。失敗すればこの国の政治は發育不全になる。(聞き手・都府吏)

評伝



私は、1990年代初期からはほぼ3年に1度の割合で話をじかに聞いてきた。93年6月、テープを聞きながら、その前にいくつか聞きたいことがある」と言っていた。その「日本の国民はなぜ、自民党を愛せようとするのか。変えて一体どうするか。変えて一体どうするか。変えて一体どうするか。変えて一体どうするか。」

「日本はレゴ(組み立て玩具)のような国だ。それは自分の思いもろく規格化され、あまりにもがっちり組織をつくってしまっている。個人の力を最大限引き出さなければならぬ。世界中の才能を使わなければならぬ。それがレゴにはうまく入らなうか。」

2003年9月、朝日新聞「日本@世界」のインタビューで、ブッシュ政権の対テロ戦争の行方とイスラーム過激派の挑戦への懸念を口にしていた。
 「冷戦時代、私たちは『米国の覇権』と想定してきた。しかし、それが将来も妥当な想定かどうかはわからない。」

- リー・クアンユー氏とシンガポールの歩み
- 1923年 シンガポール生まれ。中国系シンガポールの客家(ハッカ)出身
 - 43~44年 日本軍占領下で、軍政ラジオの通信員として英文ニュースを翻訳
 - 49年 英ケンブリッジ大学卒業。翌年に弁護士資格取得
 - 54年 人民行動党(PAP)を結成、書記長に選出される
 - 55年 立法議会選挙に当選
 - 59年 シンガポールが英連邦自治州になり、首相に就任
 - 63年 英国から独立し、マラヤ連邦と統一してマレーシアに
 - 65年 マレーシアから分離独立
 - 71年 当局がメディア統制。有力華字紙幹部が「共産主義を賛美した」などの理由で逮捕される
 - 85年 総選挙で初当選した長男リー・シェンロン氏を國務相に起用
 - 90年 首相の座をゴー・チャクワン氏に譲る。自身は上級相に
 - 92年 PAP書記長を辞任
 - 2004年 リー・シェンロン氏が首相に就任。自身は顧問相に
 - 11年 総選挙でPAPの得票率は独立以来最低に。関係ポストから退く